

市史ができるまでには、様々な過程と作業があります。
市史編さん室ではどんな作業をしているのか、ご紹介します。



市史編さんマスコットキャラクター
おんな戦国大名 清心尼さま

史料の調査

現在は、『新編遠野市史 資料編』の刊行に向けて、遠野の歴史に関わる史料を調査しています。
市史の内容を充実させるため、ご協力くださる市民の皆様から、古文書や写真、文献などを見せていただいたり、貸していただいたり、写真を撮ったりして、史料を集めます。
また、寺社や遺跡、館跡などの現地調査や、聞き取り調査を行ったりもします。

今回は、史料調査のなかから、『阿曾沼興廃記』の調査についてご紹介します。

あそぬまこうはいき 『阿曾沼興廃記』とは？

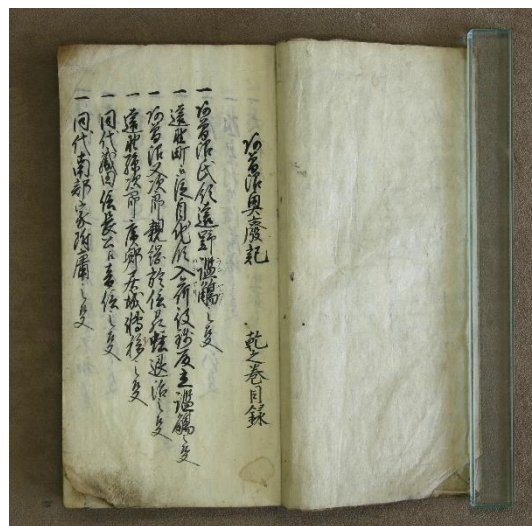
『阿曾沼興廃記』は、鎌倉時代から安土・桃山時代まで遠野を支配していた阿曾沼氏の興亡や、当時の遠野の様子を小説風に記したものです。著者の宇夫方広隆（うぶかた ひろたか 1688~1768）は遠野南部家の家臣で、他にも『遠野古事記』や『八戸家伝記』などを著しました。宇夫方氏は阿曾沼氏から分かれた一族なので、広隆は阿曾沼氏の末裔といえましょう。

中世の遠野や阿曾沼氏に関する史料は非常に少ないため、この『阿曾沼興廃記』が当時を研究する上での、いわば根本史料となります。

しかし、宇夫方広隆自身の手による『阿曾沼興廃記』は伝わっておらず、いくつかの写本が伝わるのみです。
これらの写本が、いつごろ、誰が筆写したものなのか、どのように伝わったものなのかなどを調査し、写真を撮影します。

写したもののなので、もちろん間違いや、筆写した人物による書き込みがある場合もあります。それらを比較し、できるだけ良質な写本を選んで底本*を決定します。その後翻刻*し、書かれている内容に関連する資料や遺跡の調査を進めていくことになります。

現在遠野市立博物館には、寄託資料を含め6点の写本が保存されています。うち1点は第1展示室に展示されていますので、ぜひご覧になってみてください。



▲『阿曾沼興廃記』写本（市立博物館蔵）
「嘉永四年亥三月 長岡茂右衛門」の奥書がある。残念ながら乾坤2巻のうち乾之巻のみが伝わっている。

用語解説

- *底本…ていほん。そこほんとも。
翻訳や校訂などをする場合に元となる本。
- *翻刻…ほんこく。
古文書に書かれた内容を、現在の文字であらわすこと。

市史編さん室では、古い時代の資料や館跡を調査しています。
古文書や古写真をお持ちの方は、ぜひ市史編さん室までご連絡ください。

